

我が著書を語る

河野俊章（尾道市）

私には以下の三著があるがいずれも結論は同じである。それぞれ特徴があるので簡単に紹介しておく。2、3、はアマゾンなどで入手可能であるが、マイホームページでも全文掲載しているのでご覧頂ければ幸いである。

私の主張点をわずか数行で書くのは、誤解を招くかも知れないが、それでも書いておく。

1. 魏の使者が来たのは、3世紀半ば、古事記が書かれたのは8世紀初め、その間文字記録のない500年が経過しているが、日本成立のような大事件であれば忘れ去られるはずがない。
ありがたいことに古事記はその日本成立の話に重点を置いている。ありがたくないことには、その話に非科学的な話（簡単に言えばデタラメ）が多い。
デタラメの中に真実らしきものを探せば、「日本政体の中心、天皇家は日向から来た」と書いている。そして現に日向には過去天皇家があったという伝承が多い。梅原猛先生は日向を「天皇家のふるさと」と表現されている。
2. 7世紀成立の中国の古史「隋書」および「北史」は、「魏志が書いている邪馬台国のものが、奈良で都を作っている（つまり大和朝廷）」と書いている。ならば「邪馬台国とは日向時代の天皇国ではないか？」と誰でも考える。

私の著書の紹介文

1. 大隅邪馬台国（2006年 地元印刷所）
歴史に縁がなかった私が持論を初めてまとめてみたパンフレットに近い本。
2. 予言 大隅邪馬台国（2008年 牧歌舎）
市販した本。世の注目を集めるほどのものではなかったが、部分的には注目されたと思う。実際に現地を歩き長文の手紙を頂きこちらが感動したり、鹿児島県人会で話題になったり、ついには映画化の話まであったが、それは実現しなかったようである。
結論は現鹿屋市付近が邪馬台国の中心、王子遺跡が唯一捕獲的邪馬台国の発掘調査とする。唐仁古墳群を邪馬台国の墓地と見る。
3. 古日向邪馬台国（2016年 牧歌舎）
持論では邪馬台国は大隅半島と当初からの確信は変わらない。
しかし、どうしても引っかかるのは「大隅半島は日向ではない」ということであった。
そのすじの人なら誰でも知っていることかも知れないが、私は知らなかったことが判明した。
それは「昔の日向は、現宮崎県と島嶼部をのぞく鹿児島県であった」という事実である。
古事記に書かれた「日向」は大隅半島を含んでいたのだ。多分大隅半島が日向の中心であ

った。

これで邪馬台国問題はすべて解決した、と私は思ったのだが、いかがであろうか？

2008年版以降、邪馬台国の位置がいろんな見方から推測できる件もあり、2016年、前作とダブル点も多いが、再度「古日向邪馬台国」を出版した。

